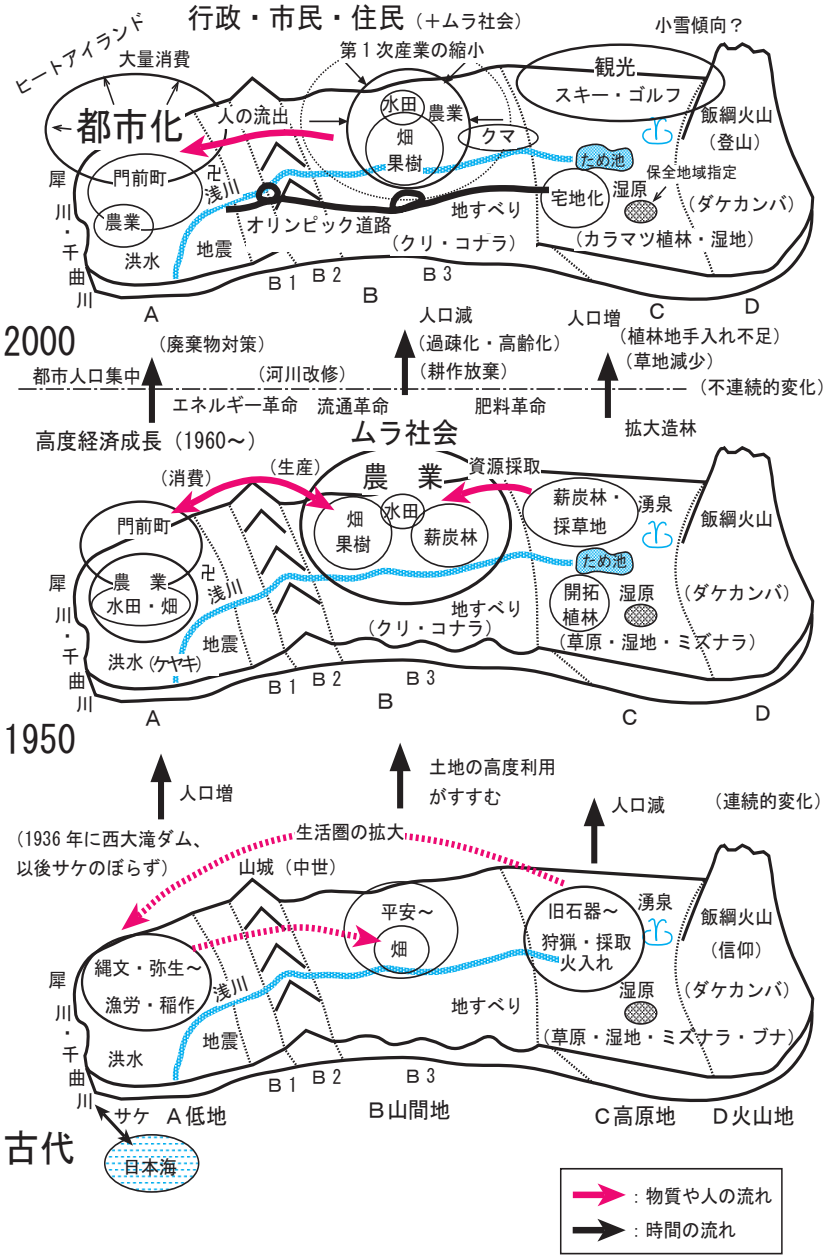
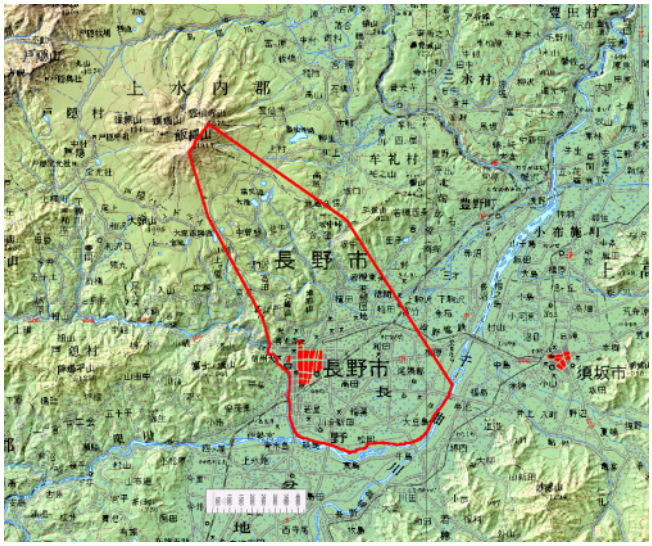
自然保護研究所の里山研究プロジェクト　成果報告書

「里山としての浅川地域」のご紹介



浅川地域の自然と社会のうつり変わりの図

自然保護研究所では、2001 年～2002 年にかけて信州の里山研究の手始めとして、多分野のスタッフが協力し、浅川地域の過去から現在までの自然と社会の変化を分析し、この地域が抱える里山としての課題や可能性について調査研究を行ってきました。



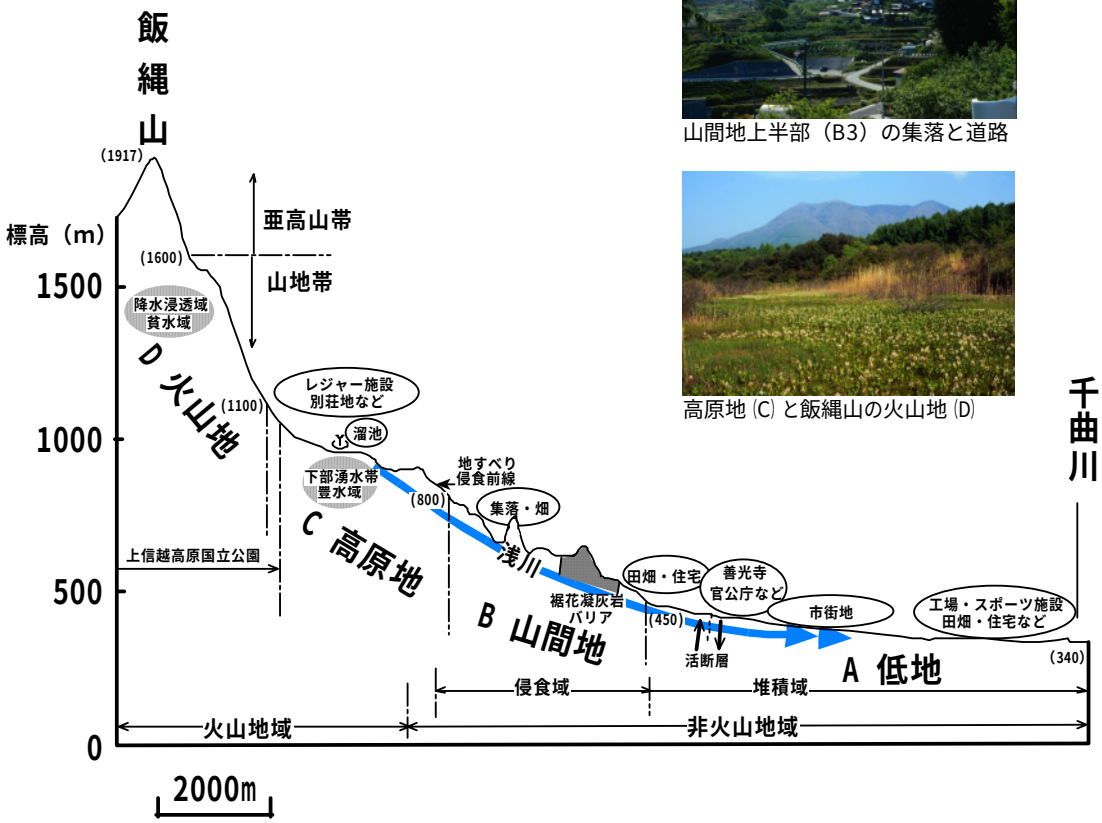
主な調査範囲

低地（A）の市街地と山間地下部（B1）

山間地（B2･B3）と飯縄山

山間地上半部（B3）の集落と道路

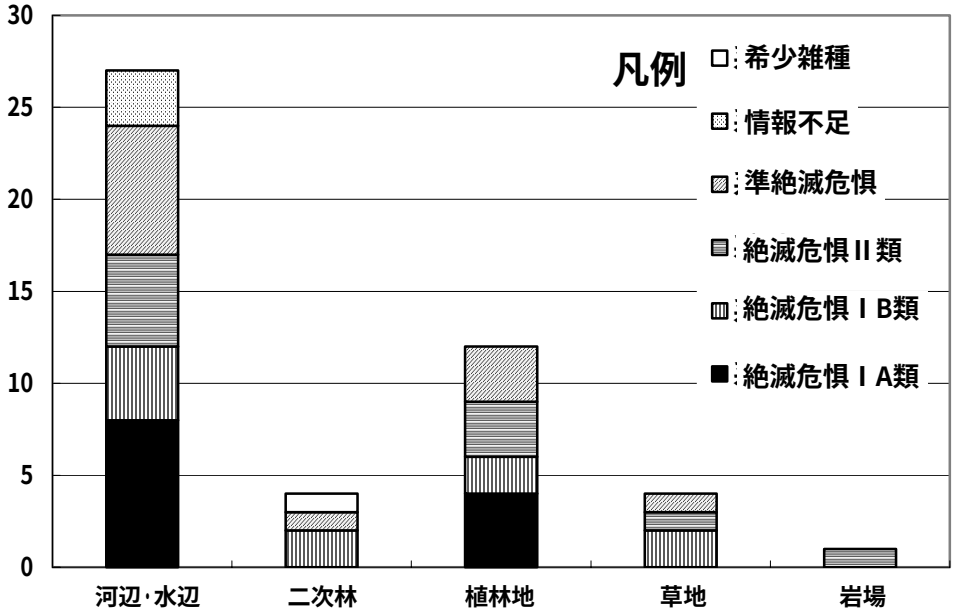
高原地（C）と飯縄山の火山地（D）



浅川地域の地域区分と現在の土地利用の関係

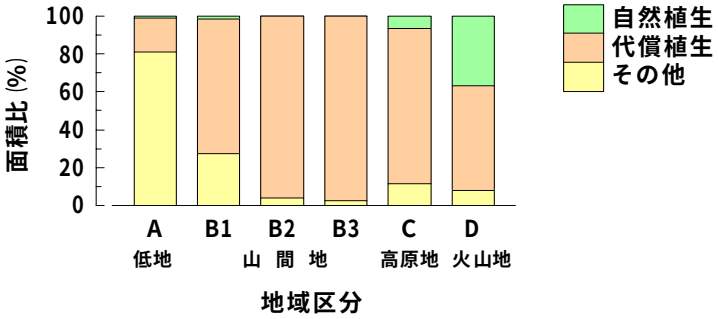
浅川地域は 4 つの地域に分けられ、それぞれに特徴のある環境がみられます。A の一部と B,C 地域のほとんどは人の暮らしの影響をうけながら出来上がった、いわゆる「里山」の自然にあたります。

多様な自然環境



浅川地域で確認された長野県の絶滅危惧種の数と主な生育立地

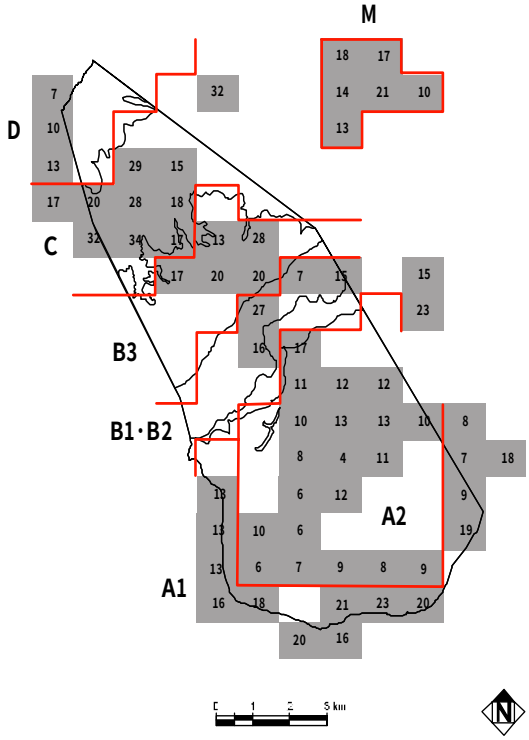
浅川地域の里山には長野県の植物種の 40%にあたる約 1000 種の植物が生育しています。また、絶滅が心配されている植物も広く分布しています。



浅川地域の山間地から高原地の広い範囲にわたって、人の暮らしとのかかわりが深い二次的な自然（代償植生）が発達しています。また、スギやカラマツの植林地（人工林）が比較的多いことも特徴的です。

浅川地域の大部分は人の暮らしと深いかかわりをもちながら形成されてきた自然（里山）からなります。そして、今なお多様な植物種と絶滅が危惧される多くの生物種が生息し、非常に豊かな自然環境が残されている場なのです。

浅川地域に生きる動物たち



鳥類のセンサス調査結果

網掛けの部分が調査されたメッシュでメッシュ内の数字は観察された鳥類の種数です。参考として浅川地域周辺の牟礼村平野部（M）のデータも示しました。
鳥類の種数が多いのは、低地の河辺（A1）と山間地（B）～高原地（C）であり、これには水辺の存在が関連していると思われます（左図）。

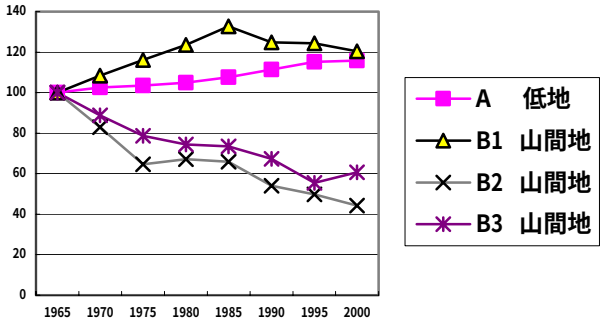
浅川地域には、ツキノワグマなどの大型野生哺乳類や多くの鳥類、魚類、昆虫類などが生息しています。野生動物のいくつかは、山間地から高原地にかけての里山地域に暮らしているものが多い傾向があります。低地の市街地では犀川や千曲川の河辺周辺環境が野生動物の大切な生息地になっています。
また、フクロウの行動圏を追跡調査した結果では、時期的な環境条件の違いに応じて、飯綱高原と犀川の河川敷にまたがって、フクロウの個体が離れた地域を使い分けている例が確認されています。

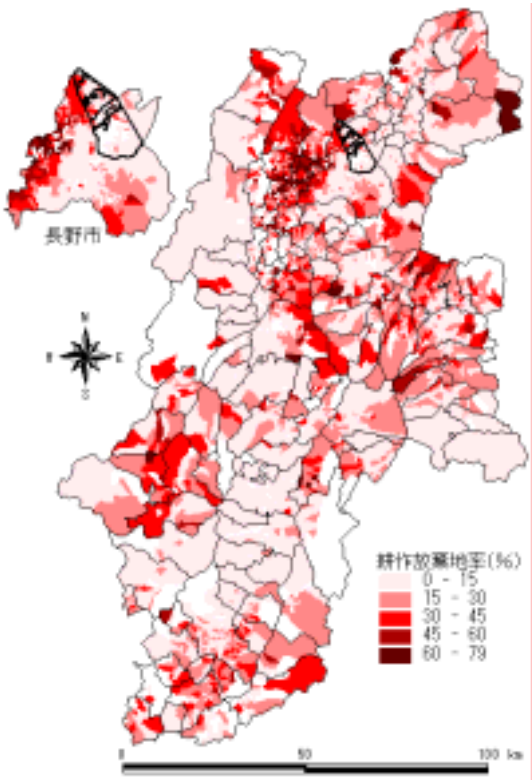
野生動物たちは、私たちが日常意識している以上に、人の暮らしと密接なかかわりをもちながら、浅川地域の多様な環境を利用して暮らしています。

変わりゆく社会と暮らし

地域別の人口の変化

1965 年を 100 として 2000 年までの各地域の人口変化をみると、低地（市街地）で増加、山間地で減少してきた様子が明らかです（右図）。





耕作放棄率（2000 年）

長野県における耕作放棄率

長野県全体で、農業集落単位での農地利用をみると、浅川地域周辺の山間部で放棄率がやや高くなっています。

耕作放棄はかならずしも人口減少と結びついているわけではありませんが、耕作地の担い手が不足している状況は、里山地域の環境の維持・保全のうえで大きな問題になっています。

1976 年～1991 年における土地利用状況をみると、
○低地：農地→建物用地など
○山間地：農地→森林へ
といった土地利用の変化傾向を読み取ることができます。

人の暮らしと自然のかかわりには、縄文時代以降の長い歴史があります。なかでも、戦後まもない 1950 年前後には、土地利用に劇的な変化がおとずれ、人々の自然への関心も、農林業を中心とした自然利用から、観光やリゾートなどに多くが向けられるようになりました。

1990 年代以降には、オリンピック道路の整備とともに、山間地上部に宅地開発がすすむ一方、下流域の治水利水対策が盛んに論議されるようになり、浅川地域は新たな変化の時代を迎えようとしています。

＊＊＊長野県自然保護研究所からの提言＊＊＊

○　防災対策と多様な野生生物の保護との両立を

○　豊かな河川･水辺環境の維持と創造を

○　大型野生哺乳類との共存のための取り組みを

○　地域の自然や社会に関する学習機会の充実を

☆　里山は、まちと奥深い山とをつなぐところ。
住む人がいて、流れる川や風の動きがあり、
大地もまた動いている。
そして、人の営みに様々な関わりをもちながら暮らしている、たくさんの生き物たち。

☆　研究の目的は、里山の豊かな環境を保ちながら、
希望のもてる地域づくりができるように、
現状を深く知り、地域の可能性を追求すること。

☆　浅川地域は、ありふれた里山でもあり、
類いまれな個性をもつ里山でもある。
それがまた里山としての地域の魅力になる。

☆　さまざまな場所で、里山への関心が一層高まり、
新たな環境保全型の地域づくりがすすみますように。

☆報告書やプロジェクト研究に関するご意見や感想をお待ちしています。また、里山が抱える問題や地域の情報などがありましたら、下記の担当までお気軽にご連絡ください。

長野県自然保護研究所
担当者：中村　慎、富樫　均
TEL：026-239-1031
FAX：026-239-2929
E-mail：nacri@nacri.pref.nagano.jp